

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第33号(平成26年12月発行)

さる10月20日(月)に平成26年第3回定例会が開会され、10月29日(水)に一般質問と議案2件の審議が行われました。

一般質問では、小林博次議員(四日市市議会選出)、藤田宜三議員(三重県議会選出)の二人から下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

小林博次 議員



○ **伊勢湾の水質を向上させるため人工の干潟や藻場を整備し、港の親水事業として緑地には子どもが遊べる空間の確保と魚釣り施設の整備、さらに災害に強い木の植樹などを行ってはどうか。また、港を訪れる人のためバス路線も必要ではないか。**

◎ 四日市港には、人工干潟に適した場所が見当たらないのが実情だが、現存する自然の干潟を守っていきたくと考えている。現在、アマモの再生実験を行っており、富双緑地周辺の浅瀬での実験を経て、成功すれば東防波堤や沖の島地区周辺に浅場を設け、藻場を造りたい。緑地には子ども用遊具の設置など、集客のための仕掛けが必要で、「みなとオアシス」制度なども利用し取り組んでいく。現在の魚釣り施設には看板等、案内をきちんとできるようにし、改修の際には親しまれる港づくりという観点で整備したい。また、根をしっかりと張り防災的機能も持つ木を植樹する必要性も認識している。バス路線については、事業者に働き掛けてきたが、採算性の問題もあって実現には至っておらず、引き続き誘致に向け多くの人たちに訪れてもらえるような港づくりに努めたい。

藤田宜三 議員



○ **次期戦略計画において、今後、集荷対策、航路対策にどのように取り組むのか。集荷対策や航路対策をさらに進めていくには、現場の実態を踏まえることが大切であり、これまでの取組事例についても伺いたい。**

◎ 他港から当港利用に転換してもらった新規荷主に対する集荷活動に引き続き取り組みつつ、現在、当港で取り扱う貨物を他港へ流出させぬよう、既存荷主の当港利用継続や増量につながる支援も行っていく。グリーン物流産業振興特区の活用や高圧ガスの陸揚げなどの実績を踏まえ、今後も他港ではあまり取り扱われていないサービスを求める荷主企業からのニーズも汲み取り、多様な貨物を幅広く集めていく。ハード面では、新物流センターや臨港道路霞4号幹線の早期整備に取り組んでいく。一方、航路対策では、入港料等の減免制度や、新規航路対象の基幹航路等コンテナ船寄港誘致事業補助金を継続させ、既存の船会社も対象にした新たな支援を検討していく。ハード面では荷役時間の短縮を図るため北埠頭80号岸壁にガントリークレーンを増設する。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。